

インド、1-3月期のGDP成長率を発表 2019年1-3月期は予想を下回る5.8%増

情報提供資料 2019年6月3日

インド政府が発表した2019年1-3月期の実質国内総生産（GDP）成長率は前年同期比で+5.8%となりました。4四半期連続の鈍化となりました。

▶ 1-3月期のGDP成長率は予想下回る+5.8%

- 5月31日の取引時間終了後に発表された2019年1-3月期実質国内総生産（GDP）成長率は+5.8%（前年同期比、以下同）となりました。市場の事前予想である+6.3%を下回る成長率となり、前期の+6.6%からも大きく減速する形となりました。この理由としては昨年のノンバンクの流動性問題の影響がくすぶり、中小企業などの資金繰りに支障をきたしていること等が挙げられています。
- 需要項目別では、政府消費が大きく伸びる一方、GDPの5割以上を占める個人消費が減速したほか、総固定資本形成（投資）や輸出も落ち込みました。産業別では、農業の伸びがマイナスとなりました。製造業や建設業の伸びも減速しました（下表参照）。
- また、2018/19年度（2018年4月～2019年3月）の実質GDP成長率は前年度比+6.8%となり、昨年度の+7.2%から減速しました。

▶ 今後の見通し

- 5月にモディ首相のインド人民党（BJP）の圧勝で下院総選挙が終わったことから、既に政治を巡る不透明感は払しょくされており、選挙結果待ちとなっていた投資活動が今後復調するものと見られます。また、モディ政権の1期目では痛みを伴う改革が相次いで行われましたが、2期目では経済成長に焦点が置かれると見られています。
- 金融政策面からも、今年に入って2回連続でインド準備銀行（中央銀行、RBI）が利下げを行っており、6月6日に予定されている次回の金融政策決定会合でも、追加利下げの期待が強まっています。景気は今後回復傾向を辿ると見られていますが、その速度が注目されます。

インドの実質GDP成長率（四半期、前年同期比）の推移

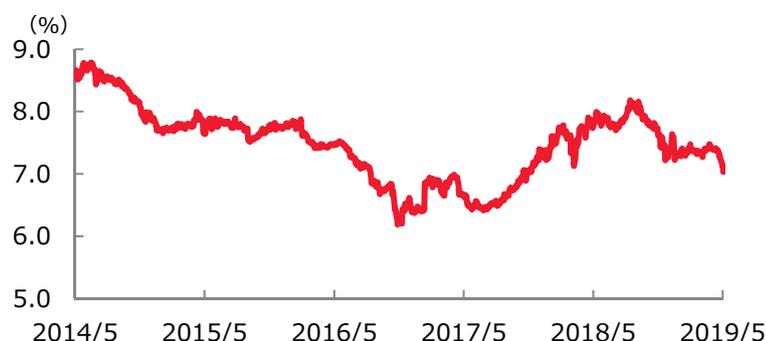
（2013年1-3月期～2019年1-3月期）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。（年/月）

モディ政権発足後のインド10年債利回りの推移

（2014年5月30日～2019年5月31日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。（年/月）

インドの実質GDP成長率（前年同期比）

		2018年 4-6月期	2018年 7-9月期	2018年 10-12月期	2019年 1-3月期
実質GDP成長率		8.0%	7.0%	6.6%	5.8%
需要項目別	個人消費	7.3%	9.8%	8.1%	7.2%
	政府消費	6.6%	10.9%	6.5%	13.1%
	総固定資本形成	13.3%	11.8%	11.7%	3.6%
	在庫増減	9.9%	4.7%	4.3%	1.0%
	輸出	10.2%	12.7%	16.7%	10.6%
	輸入	11.0%	22.9%	14.5%	13.3%

出所：インド中央統計局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

190603 (02)